

花輪莞爾さんの「正気」 米で今月英訳紹介

WWBオンラインマガジン

他言語の海外文学の翻訳出版が進まないアメリカで、各国にどんな作品があるか紹介する活動をしてる「Words Without Borders (WWB)」というNPOがある。毎月、オンラインマガジンに作品の翻訳を何編か掲載する。これまで日本からは村上龍さん、絲山秋子さんらの作品が紹介されてきたが、今月紹介されているのはマニアックな作家、花輪莞爾さんの短編「正気」だ。

WWBはオンラインマガジンの他、アンソロジーの出版や、海外の著者と出版社、読者が交流できるイベントの開催などを行っている。WWBによると、全世界の翻訳書の50%が英語から翻訳されたものであるのに対し、英語に翻訳される書籍の割合は3%だという。こうした状況に一石を投じようと、アメリカの出版関係者らが03年に設立した。

日本文学は村上春樹作品への高い評価や、桐野夏生さんの『O.U.

T』がエドガー賞候補になった(04年)ことなどで注目された。よしもとばなな、村上龍、小川洋子、宮部みゆきさんらの作品が翻訳され、以前に比べたら出版点数が増えている。今回、花輪さんをWWBに売り込んだのは書籍の翻訳会社「トランネット」(東京都千代田区)の近谷浩二さんだ。「日本の作家がブレイクしているようにも思うだろうが、絶対数が少ない。日本の文学情報は耳に入りにくいとWWBや欧米の編集者は言う」と近谷さん。オンラインマガジンのスーザン・ハリス編集長と海外のブックフェアで知り合い、日本文学をアピールする必要を痛感。PR業に乗り出した。

その第1弾が花輪さんだった。国学院大名誉教授、72歳。71年「澁面の祭」、72年「触れられた闇」で2回芥川賞候補。「正気」は怪奇幻想小説だ。「明快なプロットとオチがあり翻訳向きだった」と近谷さん。鈴木光司さんの『リング』を原作にしたホラー映画のヒットも念頭にあっての選択だという。こうした試みが実を結ぶ日を待ちたい。

【内藤麻里子】